

平成 2 0 年 8 月

[配布先：全組合員]

市場情報

東 北

低迷する中小建築案件

6月の岩手・宮城内陸地震以後、まだ余震が続いており、仙台でも時折体を感じる程の揺れがあります。気候はカラ梅雨も明け、東北も夏本番を迎えました。関東地区に比べれば、まだまだ凌ぎ易い気候です。

前回の報告書同様に、大型プロジェクトの好調に対して、低迷する中小案件の差は縮まらず地域、業者間格差が顕著化しております。

秋以降、自動車、I T関連の出件が相次ぎ、地元としては雇用、景気面でも大歓迎ムードですが、肝心の材料調達に頭を悩ませており、更に、これまでに経験の無い大型プロジェクトが時期も重なることで、果して地元企業にどこまで潤いをもたらすのか、はたまた混乱を招くのか、計り知れない部分を残しています。

(J F E 鋼材・湊和志)

東 京

資 源 を 大 切 に

関東地方も梅雨が空け、まさに夏本番となりました。毎年暑さが厳しくなり本当に地球がおかしくなっているのでは と実感する今日この頃です。

毎年の異常気象は地球温暖化が原因と言われていますが、行政や大企業だ

けに任せるのではなく、個人レベルでCO2削減を真剣に実行する必要があると猛暑に遭いながら感じるこの頃です。

東京支部・規格建材部会5社の稼動状況は08年4-6月は11,400トン/月、1-3月比95%と少し落ち込んだが、昨年6月以降、一年間にわたり5社計生産量は、11,000トン/月を維持して推移しています。これはフアブが橋梁においては手持ち工事を大量に持っていること、鉄骨においては大型物件のスタートがゼネコンとの価格交渉の難航から少し遅れたが除々に立ち上がり、本格的に発注され出したことにより、このペースは当分続くのではないかと見られています。

反面メーカーのロールは各社満杯となっており、稼動もロール状況次第という危険を抱えての今後の展開となりそうです。

このように建材の業界も厚板が不足し大変な状況になっています。シャーとして今お客さんに何ができるのか、自問自答する毎日ですが、

- ① 歩留りを上げ、大切な鉄源を有効に利用する事。
(鋼材価格が高騰している為歩留り損の上昇を押える効果もあり)
- ② 本当に必要な量だけしか手配しない。
- ③ 余剰在庫は業界の在庫と認識し、これを有効利用するために、情報網を使い、必要としているところへ廻す。
- ④ 悪い製品は絶対に作らない。

等に心がけて、厚板を大切に使用することが肝心と考え行動していきたい。

(神鋼鋼板加工・菊地則夫)

東 京

厳しい今夏をしっかりと乗り切ろう

ようやく梅雨明けとなり、連日暑い日が続いております。

これからの時期は、工場は少量、多品種、短納期との戦いに加え、猛暑との戦いになるため、精神的にも肉体的にも厳しい時期になりますが、昨今の厳しい経済環境同様に、しっかりと乗り切って行かなければ、と思っております。

まず、エンドユーザーの需要動向ですが、トラックを含めた自動車、建機、産機などは堅調に推移しているものの、他業種では動きが悪く、特に建築関連は、全く仕事が薄い状況となっております。

また、比較的、大手や輸出関連中心の企業には仕事がありますが、中小や国内向け中心の企業には仕事が薄い状況です。ここにきて、ますますエンドユーザーの二極化の状況が顕著になってきている様です。

次に価格動向ですが、4月に続き、7月も値上げとなり需要や市中荷動きとは関係なく仕入れ価格は確実に上がってきています。にもかかわらず、価格転嫁は、エンドユーザーや店売り共に、まだ十分とは言えず、引き続きの課題となっております。

また、与信問題やコンプライアンス等、他にも課題を多く抱えております。

いずれにしろ、こうした課題に対し、ひとつひとつ確実に対応していかねばならず、まさに厳しい夏になりそうです。

(キヨシゲ・小林義司)

東 海

道 徳 的 水 準

梅雨明け宣言と同時に日毎に暑さは増してきましたが、最近の新聞を読んでいると『景況感悪化』『需要減速』『荷動きに停滞感』などの少々『お寒い』見出しが多くなってきました。

ユーザーの業種、品種、店売り、ヒモ付き、地域性、ロッドの大小など様々な分野や特性で需給のまだら模様がいつそう濃くなって来た様な雰囲気

す。特に、店売り分野での切板は春先の仮需からの一服感がそのまま夏まで続いており、メーカーのもう一段の値上げ発表、客先の与信不安等とあいまって、更に先行きの不透明感が増してきましたが、厚板市況は他の品種に比べるとそれでもまだまだ恵まれている環境にあるようです。

さて、世の中はいろいろな業種で『偽装』が表面化しています。それぞれの業界や会社を守るために長い間、慣習化、常態化されてきたことも多いのだらうと思いますが、それらの業界だけの『あたりまえ』は許されなくなっています。

我々厚板シャヤーの業界は愚直なまでに真面目にやって来た業界だと確信しておりますが、それでも、業界の目線ではなくて一般の人から見たときに、変だと思ふものはやはり変なのだと思います。弊社の中のひとつとっても、今までの慣習や作業を変えることには大変なエネルギーがいる状況ですから、業界全体が同じ目的意識を持つことは大変な時間と労力とコストがかかるだらうと思います。しかし、今こそ厚板シャヤー業界の道徳的水準を高める絶好の機会ではないでしょうか。

(有川シャリング工業・有川京司郎)

市場委員会の次回開催予定

第138回市場委員会

9月8日(月) 正午～

於 東京・鉄鋼会館